

会 議 録

1 会議名

令和3年度第9回牧区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

○報告事項（公開）

(1)地域協議会会長会議について

○協議事項（公開）

(1)各区の地域協議会会長と市議会総務常任委員会委員との意見交換会について

○自主的審議事項（公開）

(1)あらゆる人が安全・安心に住み続けたい「牧づくり」について

3 開催日時

令和4年1月19日（水）午後6時00分から午後7時40分まで

4 開催場所

牧区総合事務所3階 301会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）の氏名（敬称略）

- ・委員：西山新平（会長）、飯田秀治（副会長）、池田幸弘、井上光廣、小黒誠、折笠忠一、坂井雅子、佐藤祐子、清水薫、高澤富士雄、難波一仁
- ・事務局：牧区総合事務所 山岸所長、隠田次長、飯田グループ長、藤井班長、田中主事（以下、グループ長はG長と表記）

8 発言の内容（要旨）

【隠田次長】

- ・会議の開会を宣言。
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。

【西山会長】

- ・挨拶。
- ・所長に挨拶を求める。

【山岸所長】

- ・挨拶。

【西山会長】

- ・会議録の確認：難波委員に依頼。
- ・本日の報告事項である(1)地域協議会会長会議について、私の方から当日の概要を少し話し、その後事務局から詳しい説明をお願いしたいと思う。当日は全地域協議会の会長、一部の区は副会長から出席いただいた。まず、市長から地域活動支援事業については廃止するとの説明があった。やり方については後程事務局から説明があるので委員の皆様で協議いただきたいと思う。市長の説明自体は次の日程の関係もあり30分程度で退出され終了となったが、担当課の課長とのやりとりの中で各地域協議会会長の話を伺うと、半々の割合で市長の話に賛同する意見、あるいは話が早々過ぎるのではないかとことから地域協議会に諮問・答申して実施すべきとの意見もあった。私の方からは以上となる。詳細について事務局より説明を求める。

【藤井班長】

—資料No. 1に基づき説明—

- ・続いて、先程西山会長から会長会議の概要として市長の考え等をお話いただいた内容について、今一度資料の方を確認しながら説明させていただく。事前配布資料「令和3年度地域協議会会長会議（1月6日開催）における市からの説明事項の概要等」では、会長会議の中で市長から地域協議会に期待することや令和4年度の地域活動支援事業等について、市長の思いとして話されたことを箇条書きでまとめたものが記載されている。まず、実施主体についてである。市長からは、地域協議会の重要な役割として、地域協議会からは従来以上に自主的審議に集中し議論を深めていただきたいという強い思いがあり、経過措置として行う令和4年度の地域活動支援事業の審査主体については、原則、審査及び採択にかかる一連の作業は市が令和3年度の各区の基準等を活用しながら行う。また、会長会議での複数の会長からの意見を踏まえ、市による審査を基本としながらも、地域協議会が令和5年度予算案への反映を視野に入れ

た自主的審議を行うことを前提に、地域協議会として審査、採択を行う意向のある場合は令和3年度同様に地域協議会への審査等を依頼するという実施にあたっての考え方についての案である。続いて、会長会議での意見を踏まえ、改めて市の今後の対応について検討した結果として本日配布した、「地域活動支援事業（令和4年度）の実施に関する考え方について（案）」の個別事項について説明させていただく。まず地域活動支援事業の実施について、地域活動支援事業は令和4年度をもって終了し、令和5年度からは実施しない方針である。次に、経過措置として行う考え方については、これまで活動されていた地域の団体の皆様にとって、急となる事業の終了は活動方法の工夫や財源の工面といった点で対応することが難しいのではないかと考え、令和4年度に限って支援を継続するものである。審査基準について、これまでの審査基準は28区でそれぞれ地域事情を踏まえたものとなっている。市が審査等を行う区についても、審査基準を統一する考えはなく、令和3年度の審査基準等を踏まえて審査することを考えている。加えて、市が審査等を行う場合、地域協議会が採択方針や審査結果について意見を述べることはできるか、また、これまで地域協議会が担ってきた作業の全部ではないが一部について引き続き地域協議会が担うことはできるかとのことについては、採択方針や審査結果について地域協議会に報告する機会を設けたいと考えている。また、自主的審議の妨げとならない範囲で、審査基準の見直しや審査の実施等の一部にあっても地域協議会が関わるように考えている。募集の回数について、配分額に満たなかった場合の対応として追加募集の取扱いは全区統一するのにかについて、これまで活動されてきた地域の団体の皆さんへの配慮を前提としており、経過措置の趣旨からも募集は1回と考えている。令和4年度の経過措置の予算額については、予算案は決定していないが1億8千万円程度を予定している。以上のこの令和4年度の地域活動支援事業の実施に関する考え方について、委員の皆様それぞれ意見があるかと思うが、本日の協議会の中で、牧区地域協議会として審査の実施主体について意向を協議いただき、今後の方向性を決めていただくようお願いしたいと思う。

【西山会長】

- ・今程事務局から説明があったとおり、令和4年度の地域活動支援事業の審査主体について、地域協議会としての意向をこの場で決めたいと思う。ご意見等のある方はいるか。

【井上委員】

- ・質問よろしいか。この案のとおりいくと、地域活動支援事業の審査主体は地域協議会ではなくなるという解釈でよろしいか。

【西山会長】

- ・原則は、地域協議会として一切関わらないことに決定すれば総合事務所で審査する形となる。

【井上委員】

- ・事前配布された資料とあわせて見ると、市長は地域協議会で協議していく上で最も中心となるのは自主的審議であり、そこに労力と時間をかけてほしいとの思いで審査主体を市とするというのか。そうすると、地域協議会が審査主体となるか、あるいは基本は市に任せるかに関わらず会議の時間と回数は変わらないことになれば、自主的審議にかける労力や時間は地域活動支援事業にもかかるため、自主的審議にどの程度の予算がきて必要なことを満たしていくかについては重くなったり軽くなったりすることが想定される。

【西山会長】

- ・自主的審議について予算がくるのではない。市長の考えとしては地域協議会ではなく各区へ分配する形となる。今までの補助金という形ではなく、地域の活性化のためのソフト事業について予算を出すというところである。

【井上委員】

- ・「地域独自の予算」は、基本どういうふうに考えているのか。

【西山会長】

- ・今程申し上げたように「地域独自の予算」というのは、例えば道路を修繕したり建物を建てるハード事業のような性質ではなく、地域を活性化するためのソフト事業について予算を出すものである。

【山岸所長】

- ・西山会長も言われたように、地域活動支援事業は各団体から出た提案を補助して小さな活性化を目指したものではあるが、もう少し広く見た中で各区の課題を検討して活性化につながる予算要求、課題を解決するための独自の予算である。予算ばかりの話ではないが、自主的審議で地域の課題を見つけて解決に導くために取り組むことへ時

間をかけてほしいという思いである。牧区の地域活動支援事業は今まで1次募集で配分予算額を超過しており、審査が長期間に渡ることはなく昨年も6月には確定していた。ただ、28区を見ると2次、3次募集をして秋まで審査を行い、1年のうちかなりの期間を費やし、自主的審議に向かえないような地域協議会もある。そのことから、審査に時間を費やすのではなく、自主的審議の方に時間を費やしてほしいということでこの話になっている。牧区地域協議会では、自主的審議も様々な団体と意見交換を実施するなど進めることができている状況のため、審査をどちらが行うのかは皆様の意見次第である。

【井上委員】

- ・「地域独自の予算」は地域協議会で論議することではないのか。

【山岸所長】

- ・地域協議会で論議することである。

【井上委員】

- ・それは令和5年からなのか。

【山岸所長】

- ・自主的審議を行う中で、予算をつけることによって解決に結びつくようなものがあればというところである。

【井上委員】

- ・その予算というのは、橋を架けたり道路を通すということではないのか。

【山岸所長】

- ・そのようなことではない。

【井上委員】

- ・そのようなことではないとしたら、イメージとして全てではないものの地域活動支援事業とかなり重なっているように感じる。文化的なものであれば尚更である。

【山岸所長】

- ・地域協議会と行政が今後深く関わってくるが、そこでの話し合いの中であげるものがあればというところである。

【井上委員】

- ・予算規模は1.8億円ということか。

【山岸所長】

- ・それはない。1. 8億円は地域活動支援事業として実施してきた市長の考えである。

【井上委員】

- ・結果として、今までの地域活動支援事業の何かしらの部分と重なることはあり得るということか。

【山岸所長】

- ・あり得ることである。

【井上委員】

- ・分かった。

【坂井委員】

- ・今の提案に対してである。個人的な意見になるが、山岸所長からも話があったように牧区としては時間をかけているわけでもなく、予算を超過しても地域協議会で協議しながら予算内に収めている。短期間で行っている点は牧区の良いところである。そして、令和4年度は地域協議会で審査をしたらどうかというのが私の意見である。最後というものもあるが、地域の方が自らの集落のどういうことを活性化させたいかという案をヒアリングで聞くのも今後自主的審議に取り組むにあたって重要なヒントだと思う。それを地域協議会でどのように噛み砕いていくか、何が牧区の活性化に必要なのか意見を持ちながらヒアリングや審査を行うという構えで、令和4年度の審査は地域協議会で行ってはどうかと思う。井上委員が予算の話もされたが、自主的審議を行うにあたり、令和4年度は牧区に何が必要なのか、または何が足りないのかを様々な団体の話を聞きながら考え、何があれば牧区に留まってもらうことや人を呼び込むことができるのかを自主的審議で話し合いをしていくことが大切だと思うので、予算云々ではなく、議論した上でそこにかかった予算がどの程度だったかということを経営に報告する形になると私は思う。

例えば、高齢者のバスや子どもたちの移動手段、憩いの場がなくなったり店舗の減少など様々なことがあげられる。

【西山会長】

- ・坂井委員から今後の取組について意見があった。他の委員からも意見等を伺いたい。先に令和4年度の地域活動支援事業の審査をどのようにするか議論したいと思う。地

域協議会が審査を行わなければ事務局の方で審査をする形となる。今まで地域協議会委員12人で行っていた審査と異なり、なかなか難しい部分もあると思われる。加えて、令和5年度以降の取組を考えると地域協議会として一切関わらないということではなく、関わる中で将来的なものが見い出せば良い。結論から申し上げますと、令和4年度も従来どおり地域協議会で審査を行いたいというのが個人的な意見であるが、賛成の方はいるか。

【難波委員】

- ・私は反対である。令和4年度で地域活動支援事業は終了し、令和5年度からは地域を盛り上げるために各地区の独自予算が設けられ、市長の考えとして地域協議会は自主的審議に時間を費やしてほしいとのことである。牧区は、毎年他の地区より審査の期間は短いかもしれないが何カ月かはかかっている。来年以降のことを考えれば、我々が自主的審議で必要なものを予算要求していくために、令和4年度中に予算要求に力を入れた方が本来の形だと思われる。審査は各団体にとって必要なものだと思うが我々も素人のため、権限を持たされたものの予算を動かすことに少し疑問を感じていた。今後は我々が提案することになるため、そちらに労力を費やした方が良いのではないか。確かに、坂井委員が言われたように、審査することによって地域の声を聞くことができると思うが、提案してくるのは一部の団体でしかない。我々の立場からすれば区全体を見た上で取り組んだ方が良いと思われるので、現在我々が進めている様々な人から聞いた問題に対する予算要求をしなければ令和5年度の予算は0円である。特段、予算をもらわなければならないという話ではないが、どういうものが牧区にあれば良いのかを地域協議会で形作る必要があると思われるので、審査は今回当初の考えである市で行い、その後結果を地域協議会へ報告する程度で良いと私は思う。審査自体は最後なので市へお願いした方が良いと思うし、また市の審査を拝見することは地域協議会にとって勉強になると思われる。

【西山会長】

- ・令和5年度に向けて自主的審議に取り組む中での費用面を見つけ出すとなると、令和4年度にあがってきた提案の中で継続性があるものを見極めながら行う必要があると私は考えていた。

【小黒委員】

- ・私は難波委員の意見に賛成である。地域活動支援事業は終わるわけなので、令和4年度は市で審査をしていただき、地域協議会は違う方向へ向かないといけない。

【西山会長】

- ・地域活動支援事業として補助金が交付されるのは終了となるが、地域活動支援事業の内容が全くなくなるわけではない。

【小黒委員】

- ・自主的審議を進めていく上で、頭を切り替えて考えていかなければならない。人から出てきた意見ではなく、地域協議会が意見を出して進めていかなければならない。

【西山会長】

- ・そのためには、令和4年度に提案される地域活動支援事業の内容を参考にすることもあるのではないかな。

【小黒委員】

- ・提案の内容を聞いてしまうと、逆にその方向性にむかってしまうので聞かない方が良いと思う。まっさらな状態で考えて出たものが一番良い。人から聞いてしまうと迷うだけで良いことがないと私は思う。

【西山会長】

- ・意見を聞くということではない。

【小黒委員】

- ・意見を聞くのではないが、出てくる話は必ず聞くものである。そのため審査には関わらない方が良いと思う。

【西山会長】

- ・ただ、市に任せる場合は総合事務所で審査をする形となる。我々が全く関わらないことが果たして良いのかどうか。

【小黒委員】

- ・知らないとまでは言わない。それでも良いのではないかという、私も難波委員もあくまでも意見としてである。

【難波委員】

- ・一つよろしいか。市の予算要求は10月なのか。

【山岸所長】

- ・業者に見積もりを依頼するなど、忙しくなるのはその頃である。

【難波委員】

- ・それまでに地域協議会で自主的審議を詰めていき、何が欲しいのか、どんなことをしてほしいのか、あるいは何もいらぬのかの答えを出さなければならない。

【山岸所長】

- ・答えを出すというのは、令和5年度から「地域独自の予算」としているが、これまでの会議の中では、難波委員が言われたように時間がかかり短すぎることもあり、令和5年度に各区全てからあがってくる想定も難しく、もう1年先のところもあるのではないかという意見があった。独自の予算と言われた時に、ある程度の準備ができていたり、もう少し詰めれば間に合うところもあると思われる中で、なかなか全区がそうではないというところもある。会長会議でもそのような意見が出た。

【難波委員】

- ・事前配布していただいた概要を見ると、地域協議会は審査を行わず、「地域独自の予算」に力を入れて欲しいとのことである。予算の締め日は分からないものの春から自主的審議一本に絞って向かっていかなければならないという思いで本日出席した。

【飯田副会長】

- ・自主的審議に対し予算がつくか否かということと地域活動支援事業の審査をどうするかは違うことだと思う。令和4年度をもって地域活動支援事業は廃止される。理由は予算の関係など様々であると思うが、西山会長も言われたように牧区として令和4年度の地域活動支援事業の審査をどうするのか。市長の方針として地域活動支援事業を廃止し次年度は自主的審議に集中していただきたいという話であるが、自主的審議に予算を請求する話は切り離して考えた方が良く思う。

【難波委員】

- ・ハード事業でもソフト事業でも牧区総合事務所から予算要求されると思われる。この「地域独自の予算」では、我々の自主的審議事項の中で必要なものも入れてもらえるのではないか。地域協議会で議題にあがらなくても総合事務所として必要なものの中の一つとして地域協議会で審議した自主的審議であげてもらえるのではないかと私は思う。

【山岸所長】

- ・飯田副会長が言われたように、予算を獲得するというわけではなく、課題解決や地域を良くするために予算が必要だと思えるものがあればあげる。難波委員が言われたように、地域活動支援事業で長い時間を費やしているとそれらの検討ができないため、集中してもらうことを目的に審査は市の方で行うのが良いという話である。牧区においては審査に要する期間が1、2カ月なので一概に28区と一緒にではないが、全体の話なので今回決めていただきたい。審査主体がどこであれ、地域活動支援事業を実施することは間違いないので、今後地域への事前説明会も予定しないとならない。例年であれば、3月の上旬には住民の皆様には事前説明会で審査のやり方等を説明しているため、今回決めていただき準備に進みたいというのが事務局の考えである。

【清水委員】

- ・整理させていただきたい。1. 8億円の予算は令和4年度はついていて、地区ごとに決められていた配分額はなくなるのか。

【山岸所長】

- ・令和4年度は変わらない。

【清水委員】

- ・牧区の配分額500万円を何に使うかは地区で決めて良いのか。

【山岸所長】

- ・令和4年度の地域活動支援事業は今までと同様である。

【西山会長】

- ・その審査を地域協議会が行うのか、あるいは市で行うのかである。

【清水委員】

- ・どういう活動に充てることができるかは地区ごとに決めて良いのか。

【西山会長】

- ・どういう活動に充てて良いかではなく、今までのように提案をあげていただくというところである。

【清水委員】

- ・あげてもらった前提で今まで採択基準等を決めてきたことについては変わらないのか。

【西山会長】

- ・審査を地域協議会で行うのか、市で行うのかということである。

【清水委員】

- ・現在は審査主体をどちらにしても良いという状況なのか。

【山岸所長】

- ・そのとおりである。市長自身の考えも話されたが、会長会議の際に最後だから地域協議会で審査したいという会長もいれば、市で審査する方がありがたいという会長もいて様々な意見が出た。それを受け、各区で選んでもらうこととなり現在問いかけている状況である。

【清水委員】

- ・1月22日の総務常任委員会との意見交換会はどうなのか。

【西山会長】

- ・1月22日の総務常任委員会との意見交換会は新型コロナウイルスの影響で延期となったが、今後開催されれば同様のことが議論されると思われる。

【井上委員】

- ・特に文化的なことを令和5年度の地区ごとの予算として考えていくと、文化的・地域的なことと言うと牧区も非常に広い。確かに、地域協議会で「地域独自の予算」を考えていくと地域活動支援事業も実際に見てみないと分からないところがある。形はどうであれ、私はやはり色々な人の意見を聞くのは良いことだと思うし、そういう意味では西山会長が言われたように地域協議会で審査をした方が良いと思う。

【佐藤委員】

- ・ここにいる地域協議会委員12人の意見は牧区に住んでいる1600人余りのうちの12人でしかない。各団体に聞いてそこから新しい意見や必要なことを探り出せば良いと言われるが、そこへ行く前に今年で地域活動支援事業が終わるのを受け、今年こそこの課題を自分たちの地域のため、団体のためにこういう部門が必要だという意欲を持って最後の地域活動支援事業に応募されることが想定される。その意欲を地域協議会がくみ取る過程でそれぞれ意見を持たれると思われる。様々な意見を聞いたり自分たちの考えを何に向けて進めていくのかという一つの基準を取るためにも、最後の地域活動支援事業の応募をぜひ私どもも見させていただき、次の自主的審議の中で生かしていきたいと思うので最後の地域活動支援事業の審査をさせていただきたいと思う。

【西山会長】

- ・高澤委員から何か意見等はないか。

【高澤委員】

- ・私の意見としては、どちらかというと呼募された内容を聞くのは良いが審査となると別である。応募された内容さえ分かれば地域協議会で審査はしなくても良いと思う。やはり人間なので審査まではなかなか難しいところもあるため、個人的な意見としては審査はあまり好ましくない。

【西山会長】

- ・先程佐藤委員が言われたように、今までは12人で意見を出し合って審査していたが事務局だと3人、4人しかいないのでその中で審査をする形が本当に良いのかどうか。

【難波委員】

- ・最終的にはどちらかに決めなければならない。審査主体を地域協議会とする意見と行政とする意見どちらも出ているので賛否を取ってはどうか。

【西山会長】

- ・地域協議会で審査を行うかあるいは市で審査を行うかの賛否を取る形でよろしいか。令和4年度の地域活動支援事業については、従来どおり地域協議会で行うことに賛成の方は挙手を求める。

(出席委員の過半数が賛成)

- ・それでは、令和4年度も地域協議会で審査することに決定したいと思う。

【藤井班長】

- ・今程、審査の実施主体を地域協議会で行うことで決定いただいた結果を受け、令和4年度の地域活動支援事業実施にあたって住民への周知を行う必要がある。去年は、3月9日(火)に事前説明会を開催しており、今年度についても同様の時期で3月8日(火)に牧コミュニティプラザで開催を予定したいと思う。また、説明会後の個別事前相談会や提案書受付開始時期、期間等も昨年同様の日程で進めさせていただくことで御了解いただければと思う。

【山岸所長】

- ・町内会長への発送の関係で次回の地域協議会終了後では遅くなるため、本日ある程度スケジュールの了解をいただかないと地域協議会日よりや住民への周知が遅れて町内

会長へも迷惑がかかる。今年度牧区の採択方針を変える必要がないという前提のもと、事前説明会を3月8日の火曜日に行わせていただきたいと思います。提案書の受付開始も4月1日から4月22日まで、ヒアリングを5月8日の日曜日というところをご了承いただきたいと思います。

【藤井班長】

- ・進めないと今後のスケジュールについても遅れてしまうため、御了解いただけるか。

【山岸所長】

- ・ヒアリングを実施しないなど、大きく変更が必要なところがあればご意見の方をいただきたいと思います。

【西山会長】

- ・基本的には今までどおり実施することによろしいか。
(一同、異論なし)
- ・それでは、報告事項について終了したいと思う。続いて協議事項である(1)各区の地域協議会会長と市議会総務常任委員会委員との意見交換会について、事務局に説明を求める。

【藤井班長】

—資料No. 2に基づき説明—

【西山会長】

- ・今程の事務局の説明について、意見等はないか。

【井上委員】

- ・一つよろしいか。アンケートの結果を見ると、私たちの自主的審議等が色々関わってきてインフラやバスの運行など生活に関わるものが記載されている。本日話題となった「地域独自の予算」の方向付を見ると、文化的なことや地域インフラに関わらないことをこれからメインに行っていくことが読み取れる。その場合、方向性の向きが離れていると感じた。

【西山会長】

- ・出席するのは私なのでどういう発言をするかについてはこれから深く考えたいと思っているが、基本的な流れとしては先日の会長会議でのやり取りの継続的な形を考えている。会長会議当日は市長も次の日程があるとのことで帰られ、後半に述べられた会

長の不満や意見に対する明確な回答が得られなかった。市議会としてどのような考えでこの場を設定したのかも疑問である。今程井上委員が言われた「地域独自の予算」をアンケート後半に出てきた「高校通学に対して交通費補助」の意見や山村留学といったソフト事業の形で進めていけば自主的審議とのつながりも出てくるため良いのではないかと個人的に思った。

【井上委員】

- ・例えば、山村留学をすれば地域が賑やかになり活性化はすると思う。しかし、それは牧区でそれぞれの方がより充実して生きがいを持って生きていくこととは少し離れたところがあると思われる。もちろん、それを否定するわけではなく、そこに一生懸命にやる人がいて、それらを盛り上げ、長く続けていくことが一つの筋にはなると思われるが、個人の感想としては少し離れていると思われる。結局、「地域独自の予算」の方向性とアンケートに記載されている思いや問題とが離れている関係に似ていると思う。

【西山会長】

- ・市の総務常任委員会がどのような考えで各地域協議会の会長を招集して、意見を聞くとしているのか、私自身まだつかめていない。意見交換会の場に行ってみないと分からない部分もかなりあると思う。今程井上委員が言われたことについては、お聞きした上で、場の雰囲気等も踏まえながら意見を述べたり考えをまとめることとして良いか。

【山岸所長】

- ・議会の方も総務常任委員会で所管事務調査ということで、地域自治区として各地域協議会をおくことによって、果たして当時の目指すべき姿になっているのかというあたりを調査している。委員間で今まさに議論しているが、その中で各地域協議会会長のご意見を聞くという流れで今回意見交換会の場が設けられたと考える。

【西山会長】

- ・総務常任委員会との意見交換会については、今程の内容を踏まえた上で会議に臨んでいきたいと思うのでよろしくお願ひしたいと思う。他に意見等が無いようなので協議事項について終了し、続いて自主的審議事項である(1)あらゆる人が安全・安心に住み続けたい「牧づくり」について、事務局より説明を求める。

【藤井班長】

- ・自主的審議事項である「あらゆる人が安全・安心に住み続けたい『牧づくり』について」、説明させていただく。前回の地域協議会において、今まで実施してきたスポーツ団体に通う子どもの保護者や牧振興会との意見交換会を踏まえ、次のステップとして牧区で新たな取り組みを自主的に始められた3名から話を伺い、その内容によって自主的審議に結びつけられたら良いということで決まったかと思う。そこで、事務局から3名の方へ今回の意見交換会の主旨とどのような形で話を伺わせてもらうか確認した。結論から申し上げますと、2名の方については大変謙遜していらっしゃったが、地域協議会にて話を伺うことについては承諾いただいた。残りの1名の方については、自分が勝手にやりたいことを始めただけであり、人前で話をするような大きな思いがあって始めた取り組みではないので遠慮したいと丁重にお断りされた。しかし、話をお聞きしたい場合は、「山のホームサ」営業日にシェアスペース利用の予約をして、その際に会話をすることができるということなので、興味のある方はお問合せいただければと思う。承諾いただいた2名の方については3月末まで休業中である。意見交換会の形としては、2名一緒の場で話を伺うこととし、あらかじめ、お聞きしたい項目を示してご本人の考えをまとめた上で委員の皆様との意見交換に出席する形を望んでいる。実施する曜日や時間については、お二人とも平日の夕方（金曜日以外）で早めに日程が分かれば対応可能とのことである。これらを踏まえ、具体的な開催日程や2名へお聞きする内容について事務局として案を提案させていただく。
- ・日程については、来月の地域協議会開催日、2月22日（火）に合わせ、時間は定刻の午後6時から1時間程、意見交換を先に実施して、その後午後7時から第10回の地域協議会を開催するとしたら、委員の皆様から何度も集まっていただく負担がないと思われる。また、話を伺う項目として前回の協議会のなかでも話が出ていたが、「始められた動機」や「地域のつながりや交流についてどんなふうに考えているか」、「ご自身が牧区に来られて牧区がどんなふうに見えたか」などのお聞きすることを事前にお二人へ連絡し、事務局が進行役となり順番に話をさせていただき、その後委員の方から自由に聞きたいことを質問してもらうような形での意見交換を考えている。今程の提案内容について、開催日や開始時刻、あらかじめお二人に話をしてほしい項目でこれだけは話をしたいことなどあればご意見を伺いたいと思うのでよろしくお願

したいと思う。

【西山会長】

- ・今程の事務局の説明について、質問等はないか。2月22日は本来地域協議会の開催日であるが、先に1時間程度意見交換会を行い、引き続き地域協議会を開催する形でよろしいか。

(一同、異論なし)

- ・事務局から説明があったとおり、「山のホムサ」の方は出席されないとのことだが、直接「山のホムサ」を利用して話を聞く分には拒まないとのことである。

【藤井班長】

- ・「山のホムサ」は春まで休業中である。

【西山会長】

- ・それでは2名の方に話を伺うこととし、他にも「これだけは聞きたい」というような追加の意見はあるか。

【折笠委員】

- ・「我々から支援してもらいたいことはどのようなことか」伺いたい。

【藤井班長】

- ・「2名の方がこちらに対して支援してほしい希望や要望があるか」ということか。

【折笠委員】

- ・そのとおりである。加えて、「今困っていること」を伺いたい。

【坂井委員】

- ・12人対2人となると、相手方も話しづらいと思うので一定の質問事項を出して、当日来ていただくのはどうかと思った。今の説明だと少ないと思うので私も聞きたいことを考えた。協議会に来ていただくので、「牧区を活性化させるのはどんなことをしたら良いと思うか」、「牧区の魅力は何か」、「牧区に住んでみて良かった点・問題点を教えていただきたい」、「牧区でお店を開こうと思ったきっかけは何か」、「実際行ってみて良かったと思うこと・困っていることを教えていただきたい」など、なぜお店を開いたのか具体的なことを聞きたい。そのため、あまり固い気持ちで聞くのではなく軽い気持ちで聞いた方が良いと思い質問内容を考えた。他にも、「お店を開いた上で牧区での今後の夢や希望があったら教えていただきたい」、地域協議会が中心になって行う

ので「地域協議会のことを知っているか」、「具体的には何をしているところか知っているか」、「地域協議会に対して意見や要望等があれば教えていただきたい」、「協議会だよりを年3回発行しているが見たことはあるか」、「読んだ感想や意見を聞かせていただきたい」。牧区に何年も住んでいることから地域協議会の現在の協議内容について説明し、「子育て世代の減少をどうしていくのか」、「農業の担い手がおらず人材不足や人材育成をどうしたら良いのか」、「高齢化が進んでいて一人暮らしの老人の増加」、「家からの移動手段がない」、「公共バスが減少し町に出るのも一苦勞である」などがある。

【小黒委員】

- ・後半部分はいらないと思う。2名の方に話を聞くのに、そこまで言うと無茶苦茶になってしまう。

【坂井委員】

- ・そうではない。地域協議会での協議内容をどの程度知っているのかを伺いたい。

【小黒委員】

- ・2名の方に聞く質問と地域協議会のことを聞くのは異なる。そこまで質問したら1時間では終わらない。

【坂井委員】

- ・文章で質問事項を出して地域協議会で協議している内容について知っているか、どこまで理解しているかを伺い、同じ思いであれば行動できるようなことがないか探りたいという思いである。

【山岸所長】

- ・坂井委員の言われたことはある程度反映させる。ただ、小黒委員が言われたように地域協議会の協議内容等は当日の意見交換で良いのかもしれない。事前に紙媒体でお渡しした内容について話していただくが、その後の意見交換の時間もある。

【西山会長】

- ・私の方でも冒頭のあいさつで自主的審議の説明を加え、今回来られる2名の方に理解を求めたいと考えている。

【小黒委員】

- ・ちなみに、「ポテトヘッド」の店主は牧区で生まれ育ち、どこにも出ていない。元地域おこし協力隊は違うが、「ポテトヘッド」の店主はずっと牧区の間人である。

【藤井班長】

- ・当日は店主の奥さんが来られる。

【難波委員】

- ・そうすると、前回の地域協議会で話に触れた、区外から入って来られた人が感じた牧区の話の聞くことができる。

【山岸所長】

- ・今程坂井委員が言われた内容について、事務局の方で写しの方を取らせていただき、そこから抜粋して事前の問いかけに記載させていただきたいと思う。

【西山会長】

- ・それでは自主的審議事項について終了し、続いて連絡事項について事務局に求める。

【藤井班長】

- ・次回、第10回牧区地域協議会は、2月22日火曜日、意見交換会を午後6時から行うため午後7時からとなる。後日案内文を送付するので、その際に出欠の報告をいただければと思う。

【難波委員】

- ・一つよろしいか。先程自主的審議の中でもあったが、他の地域から牧区に来られて感じられたことは貴重であり、我々が見て気づかないことを聞けるのはとても良いことだと思う。市長が新聞やテレビで話されているのを聞くと、県外から来られて上越市をこういうふうにしていきたいというビジョンがあると思われる。牧区地域協議会のために時間を割いてとまでは言わないが、もし機会があれば聞きたいと思っている。ずっと牧区に住んでいると良いか悪いか分からない部分もあるので、市長をはじめ色々なことが聞けるのであればお願いしたいと思う。

【西山会長】

- ・本日の審議内容が全て終了した。飯田副会長に閉会のあいさつをお願いする。

【飯田副会長】

- ・会議の閉会を宣言。

9 問合せ先

牧区総合事務所総務・地域振興グループ TEL : 025-533-5141 (内線 147)

E-mail : maki-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。